

景観植物での土着天敵ヒメハナカメムシの発生

[研究のねらい]

宿根バーベナやクローバーには、野菜の重要害虫アザミウマ類の天敵ヒメハナカメムシ類が多く集まります。この天敵を利用したアザミウマ類の防除技術を確立するため、ヒメハナカメムシ類の発生時期、発生量および発生種を明らかにします。

[研究の成果]

- ① 紀の川市の宿根バーベナ（写真1）とクローバーでは、ヒメハナカメムシ類（写真2）の発生は5月から認められ、6月中旬から7月上旬に最も多くなり、9月に減少します（図1）。有田川町の宿根バーベナでも紀の川市と同様の傾向が認められます。
- ② 発生ピーク時のヒメハナカメムシ類成虫の1㎡あたり生息数は、宿根バーベナでは100頭以上、クローバーでは50～100頭程度です。
- ③ ナミヒメハナカメムシ、タイリクヒメハナカメムシの発生が認められ、ナミヒメハナカメムシが優占種です。

[成果の活用面・留意点]

- ① 宿根バーベナなどの地被植物からヒメハナカメムシ類を効率的に採集する装置（天敵採集機）を、みのる産業株式会社などと共同で開発しました。採集した天敵をシシトウガラシなどに放飼してアザミウマ類を防除することができます。



写真1 宿根バーベナ
(タピアン・バイオレット)



写真2 ヒメハナカメムシ類成虫

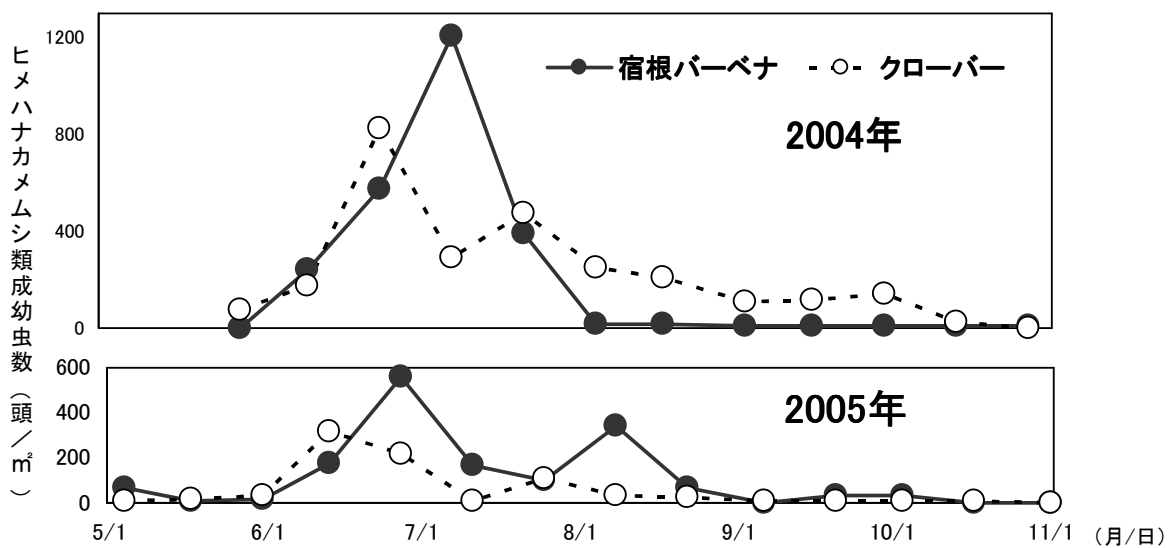


図1 宿根バーベナとクローバーにおけるヒメハナカメムシ類の発生消長(紀の川市)

実施年度：平成16～17年
担当者：福嶋綾子、井口雅裕